

第 2 期

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略 中間総括

宇 治 市

目 次

1. 創生総合戦略の基本的な考え方	1
2. 事業評価	1
3. 評価の対象事業	1
4. 第2期創生総合戦略の中間総括	2
5. 基本目標ごとの事業結果及び中間総括	
(1) 『確固たる宇治ブランドの展開』	7
① 様々な主体と一体となる魅力発信事業	
② 観光振興事業	
③ 観光インバウンド推進事業	
④ 宇治茶活用事業	
⑤ 源氏物語のまちづくり等事業	
⑥ 宇治の魅力の深化事業	
(2) 『市民の宇治への愛着の醸成と市民によるふるさと宇治の創生』	14
① 市民参画・協働によるふるさと宇治創生事業	
② 誰もが活躍できる共生社会づくり事業	
③ 宇治への愛着醸成事業	
④ 誰もが健康で生き生きと暮らせる宇治づくり推進事業	
⑤ 多文化共生促進事業	
(3) 『まちの魅力を高める都市基盤の整備』	20
① まち巡りを仕掛ける基盤づくり事業	
② 人・物の交流の活性化事業	
③ 豊かな市民生活を実現する社会基盤の整備事業	
④ 地域コミュニティの活性化事業	
⑤ 地域の豊かさを維持・向上させる国土強靱化の推進事業	
(4) 『持続的に発展する地域経済の活力づくり』	26
① 市内産業の進化・発展事業	
② 交流連携の強化事業	
③ 新たな産業創出事業	
(5) 『若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり』	30
① 若い世代の就労支援事業	
② 結婚・出産支援事業	
③ 子育て支援環境充実事業	
④ 学習環境等充実事業	
⑤ 切れ目のない連携教育推進事業	
⑥ 地域等協働子育て環境充実事業	
6. 国の地方創生関係交付金を活用した事業（令和5年度事業）	37
7. 重要業績評価指標（KPI）目標値修正一覧	42

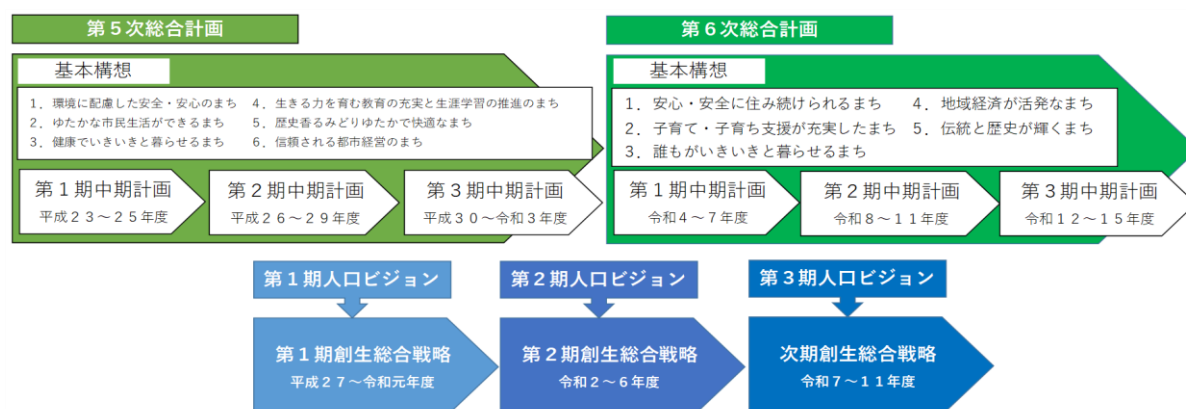
1. 創生総合戦略の基本的な考え方

(1) 創生総合戦略の目的

人口減少及び少子高齢社会への迅速かつ的確な対応と、本市の特色を活かした施策の実施により、持続的に発展するまちを目指すことを目的とする。

(2) 創生総合戦略の位置付け

第2期創生総合戦略の策定にあたっては、国の総合戦略を勘案するとともに、第5次総合計画第3期中期計画に定める施策を踏まえた上で、人口ビジョンにおいて示した人口の変化による将来への影響や課題に対応し、持続的に発展するまちを目指し、5つの基本目標を定めている。



2. 事業評価

各基本目標における数値目標や具体的な施策における重要業績評価指標（KPI）の達成度により、取組の効果を毎年度検証し、国の動向や社会経済情勢の変化などに対応した施策・事業の見直しとともに、数値目標やKPIについても見直しを図るなど、PDCAサイクル（※）により、創生総合戦略の実効性を高めている。

また、効果検証に際しては、庁内で評価を行うとともに、その妥当性・客観性を確保するため、産学官金労言士等の有識者及び市民で構成される「宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」で検証を行うこととしている。

（※）PDCAサイクルとは、Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法。

3. 評価の対象事業

第2期創生総合戦略の5つの基本目標に掲げる事業のうち、令和2年度から令和5年度に実施した事業について総括するとともに、令和5年度地方創生推進交付金対象事業について評価を行った。なお、同交付金は、国において事業効果を高めるため、外部有識者による効果検証を求められている。

4. 第2期創生総合戦略の中間総括

(1) 数値目標・重要業績評価指標（KPI）の達成状況

達成状況の評価にあたっては、令和5年度末時点で第2期創生総合戦略の5年の計画期間のうち、4年が経過していることから、各指標の目標値の80%を基準とし、目標達成・概ね達成（未達成の指標のうち達成率80%以上）・未達成（未達成の指標のうち達成率80%未満）と分類した。

①数値目標の達成状況

基本目標の達成に向けて様々な施策を積極的に実施してきたものの、新型コロナウイルス感染症等の影響もあり、基本目標ごとに設定した数値目標については、全て達成には至らなかった。

各数値目標の現状を見ると、基本目標（1）の数値目標である観光客の宇治市満足度と観光客のリピーター割合についてはどちらも基準値と比較して改善しており、基本目標（2）の市民の宇治への愛着度は基準値を若干下回る結果となった一方、定住意向に関してはやや改善が見られた。

対して、基本目標（3）（4）（5）においては、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかったと推定され、全て基準値以下となっており、目標の達成に向けては厳しい状況となった。

基本目標	数値目標	単位	基準値 (年度)	目標値 (年度)	現状※ (年度)	備考
(1) 確固たる宇治ブランドの展開	観光客の宇治市満足度 (飲食・お土産・景観等 12項目)	%	55.0～ 93.0 (H28)	全て85.0 以上 (R4)	12項目中 6項目達成 (R4)	宇治市観光動向調査より
	観光客のリピーター割合	%	56.3 (H28)	70.0 (R4)	59.4 (R4)	宇治市観光動向調査より
(2) 市民の宇治への愛着の醸成と市民によるふるさと宇治の創生	市民の宇治への愛着度	%	73.2 (R1)	90.0 (R6)	69.6 (R5)	定住に関するアンケート調査より
	市民の定住意向	%	47.9 (R1)	70.0 (R6)	50.6 (R5)	定住に関するアンケート調査より
(3) まちの魅力を高める都市基盤の整備	滞在人口率	倍	0.86 (H30)	0.93 (R6)	0.86* (R5)	平日14時の滞在人口÷夜間人口（国勢調査） *令和5年6月までの実績値
	昼夜間人口比率	%	88.1 (H27)	90.0 (R2)	87.8 (R2)	昼間人口（国勢調査）÷夜間人口（国勢調査）
(4) 持続的に発展する地域経済の活力づくり	市内事業所数	事業所	5,413 (H28)	5,413 (R3)	5,126 (R3)	経済センサスより
	市内従業者数	人	54,794 (H28)	56,500 (R3)	54,266 (R3)	経済センサスより
(5) 若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり	出生数	人	6,514 (H26～30年)	7,500 (R2～6年)	4,183 (R2～5年)	
	子育てしやすい環境や支援への満足度	%	22.9 (H30)	30.0 (R5)	19.9 (R5)	子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

※把握している直近の数値

②重要業績評価指標（KPI）の達成状況

基本目標の達成に向けて実施する具体的施策における事業の進捗状況を測るために設定した重要業績評価指標（KPI）では、4割弱の指標が目標を達成し、全指標の約5割が達成率80%以上となった。

基本目標（1）の観光分野では、新型コロナウイルス感染症の影響により観光客数が激減するなど大きな影響が出たものの、歴史や文化などの恵まれた資源を活用し、宇治の持つ多様な魅力を広域的に発信することができた。

また、基本目標（4）の産業分野では令和2年度に開設した新たな起業拠点において市内の起業家支援を行うとともに、異業種交流会、事業承継に向けたセミナーの開催など様々な取組による市内企業の支援を実施することができた。

一方で、基本目標（5）においては、達成状況としては全体の中で最も低い状況となったが、未達成となった項目の中でも達成に向けて事業を進めることができた項目もあり、引き続き、積極的に取組を推進していくことが重要である。

基本目標	重要業績 評価指標 (KPI) 数 ①	目標達成 (100%) ②	概ね達成 (80%) ③	目標 未達成	今後評価※ ④	目標達成 の割合 ②/(①-④)	達成率 80%以上 の割合 ②+③/(①-④)
(1) 確固たる宇治ブランドの展開	12	5	1	4	2	50.0%	60.0%
(2) 市民の宇治への愛着の醸成と市民によるふるさと宇治の創生	17	5	3	8	1	31.3%	50.0%
(3) まちの魅力を高める都市基盤の整備	18	8	1	9	0	44.4%	50.0%
(4) 持続的に発展する地域経済の活力づくり	11	7	0	4	0	63.6%	63.6%
(5) 若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり	21	3	2	15	1	15.0%	25.0%
(1)～(5) 合計	79	28	7	40	4	37.3%	46.7%

※各計画における調査時期の設定や新型コロナウイルスの影響などにより、今後調査を実施する項目

(2) 人口動向分析

第2期宇治市人口ビジョン（以下、「人口ビジョン」という。）は平成27年（2015年）の国勢調査人口をもとに、合計特殊出生率や社会増減の目標を踏まえ、推計したものである。

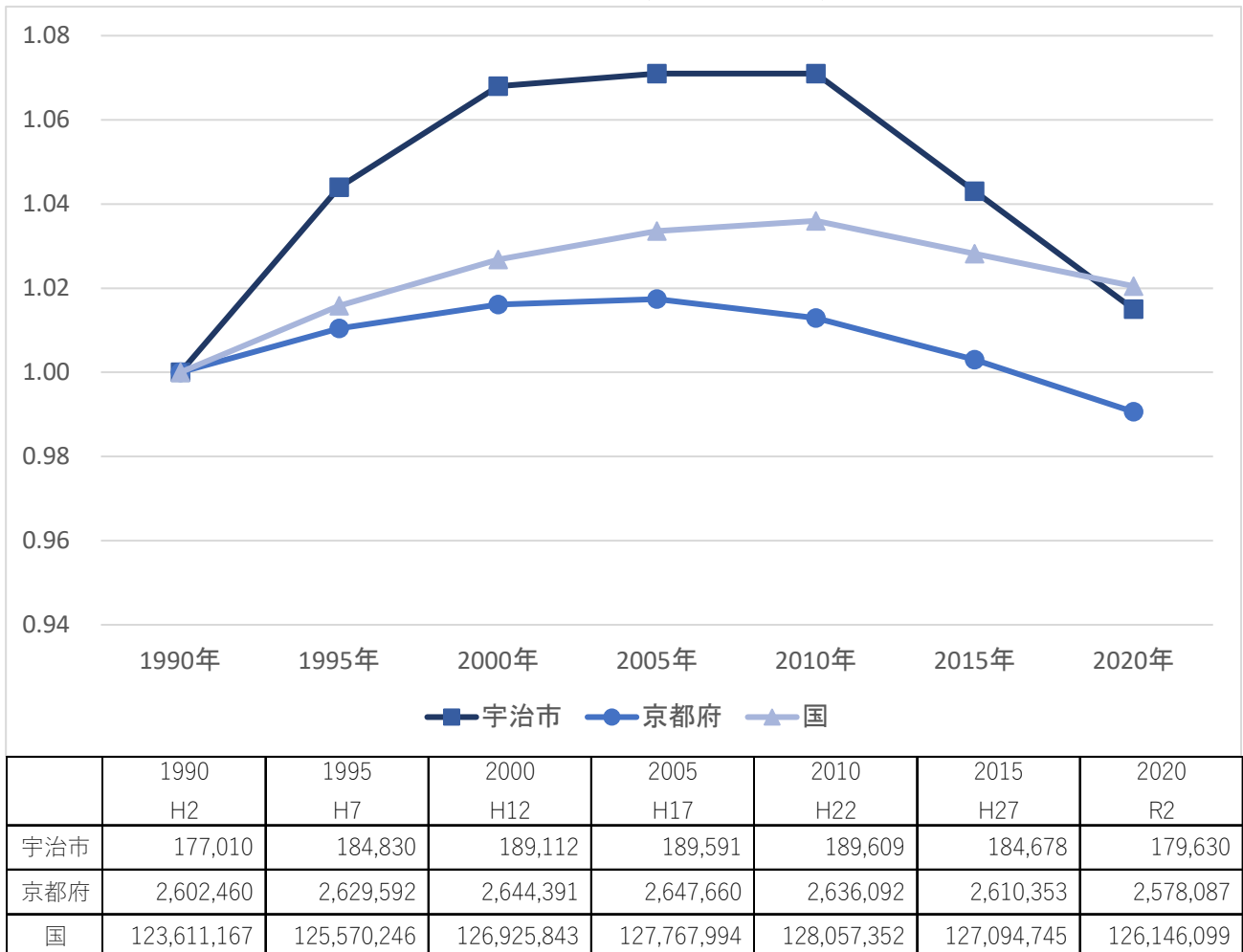
人口ビジョンと国勢調査をもとに算出した推計人口を比較すると、宇治市の人口は令和5年においても人口ビジョンを下回っており、その差は広がっている。

〈第2期人口ビジョンと推計人口の比較〉

	2015 H27	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2060 R42
第2期人口ビジョン(A)	184,678	183,546	183,004	182,462	181,920	181,378	150,786
推計人口(※)(B)	184,678	179,630	178,292	176,915	175,719		
B - A	0	▲ 3,916	▲ 4,712	▲ 5,547	▲ 6,201		

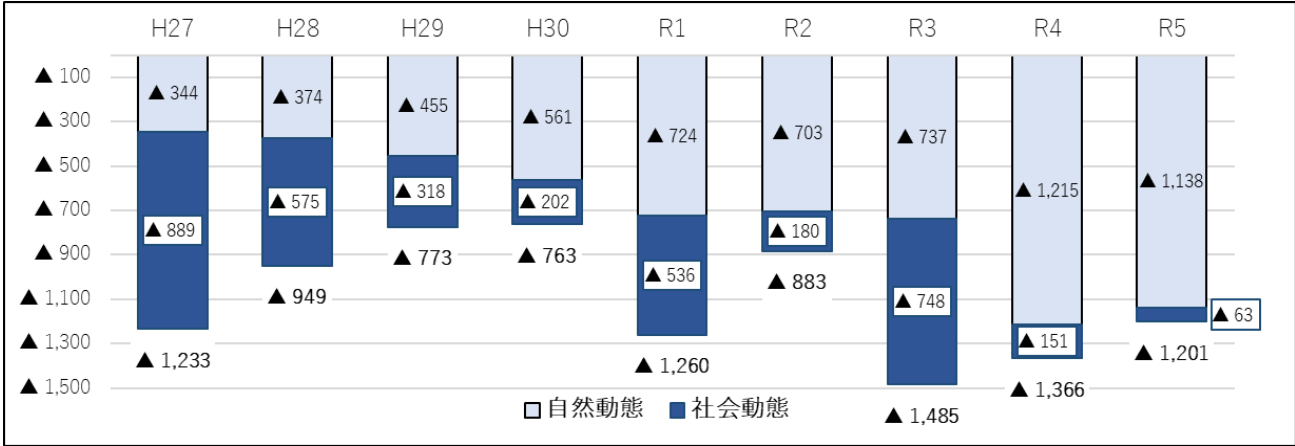
※平成27年・令和2年は国勢調査の人口。令和3年以降は令和2年国勢調査人口をベースに、その後の自然・社会増減を反映した人口（各年10月1日現在）。

＜参考＞1990年を1とした場合の人口増減の推移（国勢調査人口）



自然動態（出生－死亡）は出生数の伸び悩みや死亡者数の増加により減少が続いている。社会動態（転入－転出）でも減少はしているものの、令和５年の減少幅は創生総合戦略策定後、最も少ない下げ幅となっている。

〈人口動態の推移〉



※自然動態は、当該年中（１月～１２月）の「出生－死亡」の人数
 ※社会動態は、当該年中（１月～１２月）の「転入－転出」の人数

		2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5
自然動態	出生	1,369	1,296	1,246	1,219	1,038	1,118	1,098	1,007	960
	死亡	1,713	1,670	1,701	1,780	1,762	1,821	1,835	2,222	2,098
社会動態	転入	6,249	6,255	6,476	6,463	6,545	6,280	5,888	6,464	6,457
	転出	7,138	6,830	6,794	6,665	7,081	6,460	6,636	6,615	6,520

平成２７年度以降の世代別の社会動態では、児童（０～１７歳）は増加していることから、地方創生の取組の効果が一定表れているものと推測される。一方で１８～２９歳では大幅な減少となっており、引き続き、より効果的な施策の実施に向け、検討を進める必要がある。

〈創生総合戦略策定以降における世代別社会動態〉

平成２７年度～令和５年度の合計										
世代	0-5歳	6-11歳	12-17歳	18-23歳	24-29歳	30-34歳	35-39歳	40-49歳	50-59歳	60歳以上
人数	841	67	179	▲ 1,072	▲ 2,957	▲ 208	▲ 162	▲ 53	▲ 260	862
計	▲ 2,763									

※創生総合戦略策定以降の評価を行うため、年度集計（４月～３月）を記載
 ※入力日基準における集計結果
 ※年齢は年度末年齢で集計

児童（０～１７歳）の合計	1,087
--------------	-------

（３）中間総括

数値目標は全て未達成となり、重要業績評価指標（ＫＰＩ）の達成状況においては、達成率８０％以上の指標が全体の５割程度となった。特に『若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり』については、達成率８０％以上となった指標が２割程度となるなど、目標達成に向けては厳しい状況となった。

第６次総合計画第１期中期計画において「みんなでつくる子育て・子育てにやさしい地域共生社会」を重点施策として位置づけ、令和４年度から組織横断的な取組を進めており、引き続き、子育てにやさしいまちの実現に向け、子育て・子育て環境の充実を図る。

人口動向においては依然として減少傾向にあるが、創生総合戦略策定以降の世代別社会動態においては、０～１７歳の世代が増加していることから、第２期創生総合戦略において掲げた５つの基本目標に向けた各種取組の推進により、子育て世帯に対して魅力のあるまちづくりを進めていると評価できる。

一方で、社会動態全体では減少が続いており、子育て世帯は増加しているものの、単身者の転出がそれを上回る状況となっている。

また、数値目標や重要業績評価指標（ＫＰＩ）の達成状況では子育て支援施策に関する指標の達成率が低いことに対し、人口動向においては子育て世帯の流入が続いていると推測されることから、実際の社会動態の改善とそれに関する評価に差が生じていると考えられる。

第２期創生総合戦略策定後の新型コロナウイルス感染症の影響をはじめとした社会情勢の変化も踏まえ、次期創生総合戦略の策定にあたっては、より適切な指標の設定に努める必要がある。

第２期創生総合戦略では人口減少及び少子高齢社会に向け、出生率の向上と社会増減０を目標として、本市の特色を活かした施策に取り組むことで持続的に発展するまちを目指してきたが、人口減少に歯止めをかけるには至っていない。

引き続き、人口減少及び少子高齢社会への対応に向け、具体的な施策の見直し・充実を行い、次期創生総合戦略の策定を進める。

5. 基本目標ごとの事業結果及び中間総括

- ①当初目標値を達成したため、目標値を上方修正したもの (一覧：P42)
 ※当初目標値を達成した時点の実績値を太字で表記
- ②関連計画の改定や状況の変化に応じて、目標値等を修正したもの (一覧：P43)
- ③事業名の変更や事業の対象者の拡充などにより指標名や指標全体を修正したもの (一覧：P44)

(1) 『確固たる宇治ブランドの展開』～宇治への新しい人の流れを定着させる～

(目的)

これまでの取組により築き上げてきた本市への新しい人の流れを定着させることにより、観光客をはじめとする交流人口及び関係人口の増加を図り、本市の魅力を実感することを通じて、宇治に住みたい思いの醸成から、転入者を増やすことで人口減少に歯止めをかける。あわせて、本市への継続的に多様な関わり方の仕組みを構築し、本市と関わる関係人口を定住人口の増加につなげていく。

(数値目標)

数値目標	単位	基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
			R2	R3	R4	R5	R6	
観光客の宇治市満足度 (飲食・お土産・景観等)	%	55.0～ 93.0 (H28)	—	—	64.4～ 94.5	—		全て85.0 以上 (R7)
観光客のリピーター割合	%	56.3 (H28)	—	—	59.4	—		70.0 (R7)

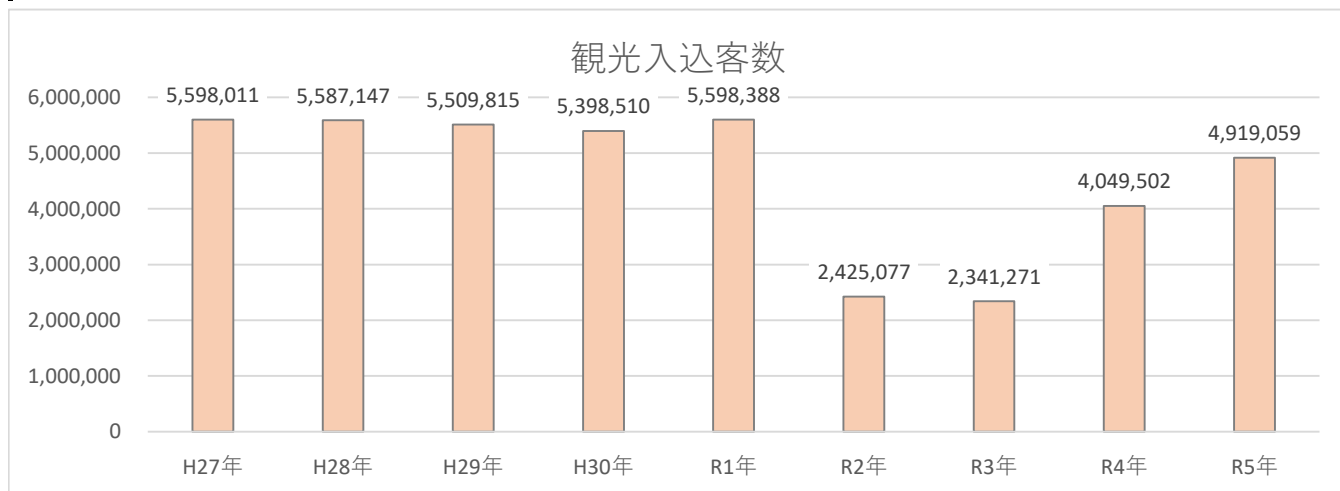
(※) 宇治市観光動向調査より

(中間総括)

数値目標に掲げた観光客の宇治市満足度と観光客のリピーター割合についてはどちらも基準値より改善したものの、目標値の達成には至らなかった。中でも交通状況に対する満足度は64.4%と低く、リピーター割合向上のためにも対策を行う必要がある。

一方で、令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により多大な影響を受けた観光入込客数は令和4年から回復傾向にあり、令和5年には令和元年の9割程度まで回復した。今後は新型コロナウイルス感染症の影響により大きく変化した観光客のニーズやスタイルに応じた的確な取組を検討する必要がある。

引き続き、魅力発信及び観光振興による宇治ブランドの強化に努めるとともに、これまでの取組により本市に興味を持った人に対して訪問意欲を喚起し、訪問後も継続して本市に関わる関係人口の増加から定住促進につなげる段階的な取組を推進する必要がある。



(具体的な施策)

①様々な主体と一体となる魅力発信事業

重要業績評価指標 (K P I)		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
地域ブランド調査 魅力度全国ランキング	位	35 (R1年)	38	27	28	27		25 (R6)
ふるさと応援寄附件数	件	3,410 (H30)	4,765	10,839	11,441	8,812		14,700 (R6)
魅力発信プラットフォーム延べ参加人数	人	39 (H30)	0	18	31	48		250 (累計 (R2~6))

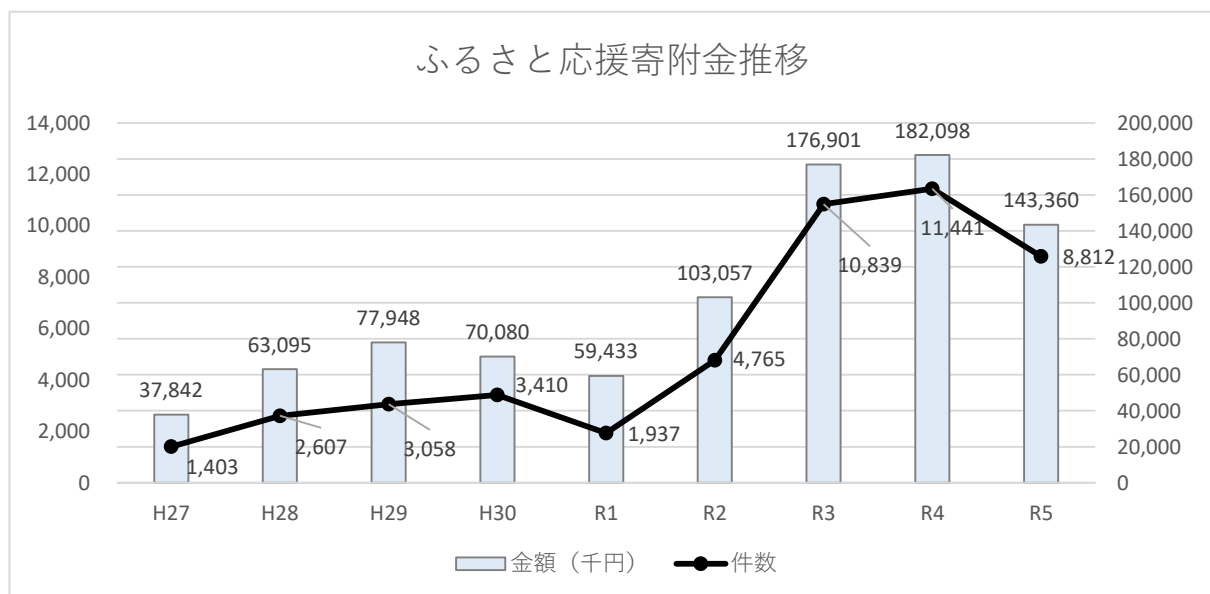
基本目標達成に向けた主な事業

事業名	令和5年度事業結果
ふるさと応援施策推進事業	一部ポータルサイトの切替作業に伴う休止期間などにより、件数・金額ともに減少したものの、新規返礼品として宇治市内での食事や体験等に利用できる電子商品券を導入し、寄附者の訪問意欲の喚起とともに、より多くの市内事業者の参加に向けた取組を行った。
親子で宇治の文化の魅力発見事業	親子ならではの宇治の楽しみ方を発見するとともに、参加者主体の情報発信を通じて、親子目線での新たな宇治の魅力を市内外へPRすることを目的に、親子で参加できる「宇治ならではの」学びの体験を盛り込んだモニターツアーを夏・秋・冬の年3回実施した。

中間総括

地域ブランド調査による魅力度全国ランキングでは令和3年度以降、3年連続で20位台をキープし、ふるさと応援寄附件数は令和5年度では減少したものの、当初目標の4,900件を大きく超え、多くの方に宇治の魅力を発信することができた。

今後も宇治の魅力を発信するため、多様な主体との連携を推進するとともに、体験型観光などを通じて継続的に本市と関わる関係人口の増加を図る。



②観光振興事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
1人あたりの 平均観光消費額（※）	円	4,046 (H28)	—	—	6,291	—		4,700 (R4)
宇治フィルムコミッション 情報発信件数	件	—	16	24	17	50		50 (R6)

（※）宇治市観光動向調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
戦略的観光情報発信事業	宇治を舞台にした「響け！ユーフォニアム」の特別編の劇場公開に向け、新しいキャラクターパネルの作成・設置を行った。また、宇治フィルムコミッションにおいて宇治市内でのロケ撮影の誘致・支援を行うとともに、宇治市がロケ地となった番組をSNSで紹介するなど宇治市のPRを行った。
全国鵜飼サミット宇治大会開催事業	宇治市では21年ぶりの開催となる第25回全国鵜飼サミットにおいて、全国の鵜飼関係者が一堂に会し、鵜飼に関する伝統文化の保存・継承及び観光振興などについて意見交換を行うとともに、現在は宇治市でしか行われていない「放ち鵜飼」の実演を行った。

中間総括
宇治を舞台にした「響け！ユーフォニアム」と連携したPRを行うとともに、デジタルスタンプラリーの実施など、実際に宇治を訪問してもらう取組を推進した。また、実施に向けて支援してきた放ち鵜飼については、令和3年度のモニターツアーを経て、令和4年度から一般公開された。これらの新たな観光資源を活かし、さらなる観光誘客を図る。

<大吉山（展望台）でのパネル設置>



<全国鵜飼サミット宇治大会>



③観光インバウンド推進事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
外国人の1人あたり平均観光消費額（※1）	円	6,227 (H28)	—	—	—	—		7,300 (R4)
外国人観光客の宇治市満足度（名所・観光案内・景観等）（※1）	%	57.4~ 100.0 (H28)	—	—	—	—		全て85.0 以上 (R4)
源氏物語ミュージアムでの小型タブレット端末の貸出件数（※2）	件	8,245 (H30)	貸出 中止*	貸出 中止*	貸出 中止*	4,270		14,000 (R6)

（※1）宇治市観光動向調査より

（新型コロナウイルスの影響による外国人観光客減少のため、令和6年度に調査予定）

（※2）平成30年7月までは音声ガイド機器の貸出

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のためタブレットの貸出を中止した

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
観光インバウンド推進事業	海外の観光動向について調査・分析を行い、様々な国や地域のニーズを踏まえ、海外向け情報誌への記事掲載を行った。また、SNSで活用できるPR動画を作成するなど、宇治市の魅力発信に努めた。
観光おもてなし推進事業	宇治観光の玄関口となる観光案内所などにおいて多言語対応タブレットを配置することにより、案内機能を強化し、誰もが安心して観光できる環境づくりに取り組んだ。市内3か所の観光案内所にて22,123人のインバウンドの方に対し、案内業務を行った。

中間総括
新型コロナウイルス感染症の拡大により、訪日外国人旅行者数が激減するなど大きな影響を受ける中でも、ポストコロナ社会におけるインバウンドの回復を見据え、継続して海外に向けた情報発信を行い、誘客促進を図った。 引き続き、宇治の強みである文化や自然について積極的な情報発信を行い、訪問意欲の喚起に努めるとともに、宇治を訪れた方が快適に過ごせるような環境整備を行い、満足度の向上を図る。

④宇治茶活用事業

重要業績評価指標（K P I）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
宇治茶や抹茶スイーツを目的に宇治へ来る割合（※）	%	24.1 (H28)	—	—	41.1	—		30.0 (R4)

（※）宇治市観光動向調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
宇治茶おもてなし推進事業	新規採用職員へのお茶の淹れ方研修の実施や市主催の会議において市内産玉露かりがねの提供を行った。また、京都大作戦2023や京都サンガF.C.宇治市ホームタウンデーなどのイベントにおいて市内産の宇治茶を振る舞い、「宇治のお茶」をPRした。
市内産宇治茶PR事業	市内産宇治茶の特徴である、新芽の時期に茶園に覆いをする「覆下栽培」とお茶摘みさんが新芽を一葉一葉手で摘み取る「手摘み」に注目して、高品質な市内産宇治茶の魅力を広くPRする動画を作成し、宇治市公式Youtubeにて公開した。

中間総括
宇治茶巡りガイドツアーの実施や市営茶室対鳳庵での宇治茶の魅力発信など、宇治茶ブランドの活用を柱とした取組を推進し、宇治茶を目的に宇治へ来る割合は目標値を大幅に上回り、宇治茶に対する満足度も向上した。 引き続き、宇治茶のブランド力の向上に努めるとともに、ブランド力を活かしたさらなる観光誘客を図る。

⑤源氏物語のまちづくり等事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
源氏物語ミュージアム来館者数	人	97,139 (H30)	46,746	40,444	63,822	147,726		160,000 (R6)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
紫式部のまち魅力発信プロモーション事業	大河ドラマ「光る君へ」を契機とし、紫式部ゆかりのまちである越前市・大津市との連携による広域プロモーションや京都アニメーションとの連携によるロゴマーク・キービジュアルの作成に加え、SNS等の活用により、幅広い層への情報発信を行った。
紫式部のまちにぎわい創出事業	お茶と宇治のまち歴史公園において、大河ドラマの世界観や平安時代の宇治の歴史や文化を体感できる展示を行う「光る君へ 宇治 大河ドラマ展」をオープンした。また、文化センターにおいて「光る君へ スペシャルトークショー in宇治」を開催し、紫式部ゆかりの地である宇治の魅力を発信した。

中間総括
大河ドラマ「光る君へ」の放映で注目が集まる機会を捉え、各種取組を実施したことにより、源氏物語ミュージアムの来館者数は達成に向けて順調に推移している。 宇治市がこれまでから取り組んできた「源氏物語のまちづくり」をさらに推進し、宇治にしかない魅力を市内外に発信することで、大河ドラマの放送終了後も継続して観光に来ていただけるよう取り組む。

<京都アニメーションとの連携によるロゴマーク・キービジュアル>



<ロゴマーク>



<キービジュアル>

⑥宇治の魅力の深化事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
重要文化的景観地区選定面積 (年度末選定面積)	ha	228.5 (H30)	228.5	228.5	228.5	228.5		546.7 (R6)
お茶と宇治のまち歴史公園 ミュージアムの来館者数	人	—	—	8,083	11,687	19,018		115,000 (R6)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
文化的景観保護推進事業	重要文化的景観に選定された「宇治の文化的景観」の保全を図るため、景観の重要な構成要素となる建物の改修について所有者等と調整を行うとともに、修理・修景事業として旧京都府茶業会議所、中村藤吉本店の主屋・角屋の3件の工事に補助を行った。
お茶と宇治のまち歴史公園運営事業	宇治ならではの茶摘みや抹茶づくりなど様々な体験メニューを実施し、宇治の魅力に触れる体験型観光を創出した。イベントやマルシェの開催、大河ドラマ展の実施などにより、来園者数は103,477人、入館者数は76,988人となった。

中間総括
重要文化的景観地区において、魅力あふれる宇治の文化的景観を保存するとともに、お茶と宇治のまち歴史公園ではイベントやマルシェの開催、大河ドラマ展の実施など取組を行ったものの目標値の達成に向けては厳しい状況となった。 引き続き、宇治の文化や歴史などの魅力的な資源を活用し、魅力の向上を目指すとともに、天ヶ瀬ダムかわまちづくりをはじめ、新たな観光資源の創出と魅力発信に取り組み、周遊観光の促進を図る。

<光る君へ 宇治 大河ドラマ展>



（２）『市民の宇治への愛着の醸成と市民によるふるさと宇治の創生』

～宇治への愛着から定住促進につなげる～

（目的）

人口減少に歯止めをかけるためには、人口の流入とあわせて、人口の流出抑制を図ることが重要である。市民の宇治への愛着の醸成を図るとともに、行政のみでなく市民自らが、地域のつながりを大切にし、様々な人々が共生する魅力あるふるさと宇治を築くことで、宇治に住み続けたい思いへとつなげ、人口流出抑制を図る。

（数値目標）

数値目標	単位	基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
			R2	R3	R4	R5	R6	
市民の宇治への愛着度（※）	%	73.2 (R1)	—	—	72.9	69.6		90.0 (R6)
市民の定住意向（※）	%	47.9 (R1)	—	—	46.3	50.6		70.0 (R6)

（※）定住に関するアンケート調査より（令和5年度は速報値）

（中間総括）

社会動態については令和4年・5年と連続して創生総合戦略策定以降最も少ない減少幅となっており、これまで取り組んできた成果が一定現れていると考えられるものの、市民の愛着度は基準値より減少し、定住意向は改善傾向にあるものの目標値は未達成となった。

宇治への愛着を醸成し、定住意向を高めるためには、市民と行政がともにまちづくりに取り組み、地域の担い手づくりを推進する必要がある。市民ニーズや地域ごとの特性を捉え、様々な主体が集う拠点や仕組みづくりに取り組むとともに、これらを担う人材の発掘・育成のため、小さなことからでもまちづくりに関わる場や機会の充実を図る。

(具体的な施策)

①市民参画・協働によるふるさと宇治創生事業

重要業績評価指標 (KPI)		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
総合計画等の策定に係る市民懇談会等の参加団体数	団体	—	6	14	14	22		50 (累計) (R2~6)
生涯学習人材バンクの利用率	%	38.9 (H30)	14.1	22.5	50.0	42.2		52.0 (R6)
健康長寿サポーター登録者数 (年度末登録者数)	人	144 (H30)	170	194	214	256		300 (R6)
健康づくり・食育アライアンス加入団体数 (年度末加入団体数)	団体	—	62	73	86	97		100 (R6)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
まちづくり活動支援事業	地域に対する興味・愛着を深めてもらうため、宇治市が認定する地区まちづくり協議会の活動内容や地域の写真を展示するうじまちパネル展を開催し、来場者との意見交換を行った。また、まち協交流会を開催し、地区まちづくり協議会間での情報及び課題の共有を行った。
中宇治市民協働推進拠点基本ビジョン策定事業	中宇治地域における市民協働推進拠点について「市民協働でつくるまちづくりの拠点ワークショップ」として市民等と共に考える機会の創出とニーズの把握等を目的に、事前勉強会とまちあるき、活動・場所・しくみをテーマとする全3回のワークショップを実施し、基本ビジョンを策定した。

中間総括
全庁的に市民協働を積極的に推進するため、組織の再編やプロジェクトチームの設置を行い、市職員に対し、市民協働の手法について研修等を行うとともに、地域コミュニティの活性化や地域の交流空間である「まちのリビング」の創出に取り組む団体を支援し、市民参画・協働によるまちづくりに取り組んだ。 引き続き、市民をはじめとする多様な主体と連携し、市民協働によるまちづくりを推進する。

<うじまちパネル展>



<市民協働でつくるまちづくりの拠点ワークショップ>

②誰もが活躍できる共生社会づくり事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
宇治鳳凰大学受講者数	人	619 (R1)	82	469	374	350		400 (R6)
生涯学習人材バンクの利用率	%	38.9 (H30)	14.1	22.5	50.0	42.2		52.0 (R6)
ここからチャレンジ相談件数	件	85 (H30)	99	166	243	323		450 (累計) (R2~6)
福祉施設利用者の一般就労への移行者数	人	19 (H30)	19	50	79	101		110 (累計) (R2~6)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
障害者雇用促進の啓発	市役所1階ロビーにおいて市内の障害者福祉施設による販売や「オープンカフェうじ」の開催、市役所8階喫茶スペースでの毎週月・火・水「かむcomeカフェ」の開催により、障害者雇用の促進・啓発に努めるとともに、障害のある人の多様な働き方を推進した。
男女共同参画施策推進事業	さまざまな分野でチャレンジする女性を支援するため、月に2回「ここからチャレンジ相談」を実施した。また、起業に必要な情報交換やネットワーク・人脈づくりを目的とした「起業カフェyukichi」や、相談者のアウトプットの場である「ここからチャレンジマルシェ」を開催した。

中間総括
高齢者アカデミーの卒業生や障害者福祉施設による市役所8階での喫茶の運営や、JR宇治駅前における「ここからチャレンジマルシェ」の開催により、誰もが自分らしく活躍できる取組を推進した。 引き続き、多くの分野において、多様な主体が活躍できるよう事業を進めるとともに、市民の活躍の機会や交流機会の創出に努める。

③宇治への愛着醸成事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
魅力発信プラットフォーム延べ参加人数	人	39 (H30)	0	18	31	48		250 (累計) (R2~6)
市立小学校への歴史資料館出前授業実施数	校	16	12	9	10	11		22
	回	22 (H30)	38	27	37	31		66 (R6)
文化芸術振興基本計画策定		—	—	策定				策定 (R3)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
未来をつくる食育推進事業	食生活を取り巻く状況が変化中、学校や地域を中心とした「食」を通じたコミュニケーションの場づくりや、次世代の健全な食生活の実践に向け、保育所や小学校での体験型の出張講座や地域で育てた野菜を使った料理教室を実施した。
環境教育充実事業	2050年のゼロカーボンシティ実現に向け、中心世代となる幼児から中学生への環境教育を実施した。学習内容については環境への配慮を身近に感じてもらうため、子どもたちの成長段階に応じた設定としたほか、体験型メニューを取り入れるなど工夫を行った。

中間総括
次世代を担う子どもたちに向けて、「ふるさと宇治」について探求的な学習を行う「宇治学」や食育、環境教育を行うことで、宇治への愛着の醸成とともに、子どもの生きる力を育む環境づくりに取り組んだ。 引き続き、子どもたちの宇治への愛着を醸成する事業に取り組むとともに、地域が主体の交流の場づくりを支援することにより、地域全体で宇治の魅力を再認識する機会の創出に取り組む必要がある。

<いちからつくる体験教室>



<小学生への環境教育>

④誰もが健康で生き生きと暮らせる宇治づくり推進事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
健康長寿サポーター登録者数 (年度末登録者数)	人	144 (H30)	170	194	214	256		300 (R6)
健康づくり・食育アライアンス加入団体数 (年度末加入団体数)	団体	—	62	73	86	97		100 (R6)
認知症あんしんサポーター養成講座受講者数 (年度末受講済者数)	人	16,984 (H30)	19,043	20,069	21,206	22,706		26,000 (R6)
市民スポーツまつり参加者数 (※)	人	16,000 (H30)	開催 中止	開催 中止	雨天 中止	雨天 中止		30,000 (R6)
コミュニケーションアプリ登録者数（年度末登録者数）	人	3,500 (H30)	7,889	13,318	16,347	19,342		30,000 (R7)

(※) 令和2・3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止

令和4・5年度は雨天のためスケート体験教室のみ実施

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
健康データ分析・地区診断事業	医療・介護・保健等のデータから、地域ごとの健康課題を分析し、地域健康かるてを作成した。また、分析結果をもとに槇島地域をモデル地域として選定し、対象地域の各種団体と健康課題を共有するとともに、地域のイベントに参加するなど、地域住民との顔の見える関係づくりを行った。
つなげる・ひろがるスポーツ振興事業	市民スポーツまつりは雨のため2年連続でスケート体験教室のみの実施となった。一方、地域の団体等と連携し、こどもスポーツフェスタや多世代交流スポーツフェスタを実施したことにより、子どもの運動機会や子育て世代を含めた多世代の交流機会を創出した。

中間総括
認知症や健康づくり・食育に関するアライアンスにおいて関連する各種取組の実施や様々な団体の交流機会の創出により、市民の健康意識の醸成や地域で活動する団体間の連携促進を行った。 今後もスポーツを通じた地域の活性化や、健康づくり・食育アライアンスを中心とした地域活動を通じて、健康づくりを支援する必要がある。

⑤多文化共生促進事業

重要業績評価指標（K P I）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
行政・生活情報に係るコミュニケーション支援取組数	件	2 (H30)	4	5	8	11		10 (累計) (R6)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	事業結果
コミュニティ放送広報活動事業	エフエム宇治放送の番組「宇治市探検」において、宇治市に住むベトナムの方に出演していただき、文化や言葉の紹介やベトナム語での市政情報の発信を行う「レッツ多文化共生！シンチャオ♪知りたい！触れたい！ベトナム文化」を放送した。
情報発信力強化事業	外国人住民が暮らしやすいまちづくりを進めるため、外国人住民とのコミュニケーション手段として有効な「やさしい日本語」の活用・普及促進に向けて職員を対象にやさしい日本語研修会を実施し、48人が受講した。

中間総括
市政だよりやごみの出し方、避難所看板の多言語化などにより、必要な情報を利用できるよう取り組みを進めるとともに、研修やイベント、ラジオ放送などを通じて多様な文化や価値観への相互理解の促進に努めた。 今後も外国人住民の増加が見込まれる中、引き続き、外国人が暮らしやすいまちづくりを推進する必要がある。

（３）『まちの魅力を高める都市基盤の整備』 ～人・物の交流から活力ある宇治を築く～

（目的）

今後の新名神高速道路の開通、ＪＲ奈良線の高速化・複線化第二期事業などによる交通環境の大きな変化に即し、さらに社会環境や人口構成の変化にも対応した公共交通機関による市内移動の利便性・安全性の向上も含めた都市基盤の整備は、人や物の交流を活発にし、まちの魅力を高める条件となる。また、通勤・通学者による昼間人口は、長期的に緩やかに上昇し、ベッドタウンと同時に働く場としての側面も徐々に強まっている。

市外から働きに来る人、観光に訪れる人など、様々な目的で本市を訪れる人（滞在人口）を増やし、人・物の交流や地域コミュニティの基盤強化により、まちの活性化を図る。

（数値目標）

数値目標	単位	基準値 (年)	達成状況					目標値 (年)
			R2	R3	R4	R5	R6	
滞在人口率（※１）	倍	0.86 (H30)	0.89	0.89	0.87	0.86*		0.93 (R6)
昼夜間人口比率（※２）	%	88.1 (H27)	87.8	—	—	—	—	90.0 (R2)

（※１）平日１４時の滞在人口÷夜間人口（国勢調査）

（※２）昼間人口（国勢調査）÷夜間人口（国勢調査）

*令和５年６月までの実績値

（中間総括）

ＪＲ奈良線高速化・複線化第二期事業の開業や、それに伴う駅のバリアフリー化及び駅前広場の整備を進め、利便性と安全性の向上を図った。また、都市計画マスタープランの改訂にあたり、地域ごとに実施したまちづくりオープンハウスや意見交換会において、市民等と将来のまちの姿を共有し、パートナーシップによる都市づくりを推進した。

一方で、数値目標である滞在人口率は減少傾向にあり、昼夜間人口比率も基準値を下回る状況となった。引き続き、滞在人口の増加に向け、観光客の滞在時間の延長や多様な働く場の創出に取り組む必要がある。

今後の新名神高速道路の全線開通により、新たな人・物の流れが生まれる機会を捉え、活力のある都市づくりを進めるとともに、市民・事業者とのパートナーシップのもと、誰もが暮らしやすい都市づくりに取り組む。

(具体的な施策)

①まち巡りを仕掛ける基盤づくり事業

重要業績評価指標 (K P I)		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
お茶と宇治のまち歴史公園 ミュージアムの来館者数	人	—	—	8,083	11,687	19,018		115,000 (R6)
1人あたりの平均観光滞在時間 (※)	—	3時間34分 (H28)	—	—	3時間30分	—		4時間10分 (R4)
無電柱化新規整備延長	m	—	0	190				190 (R6)

(※) 宇治市観光動向調査より

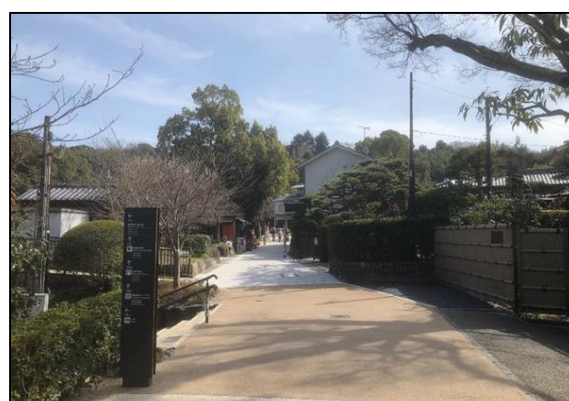
基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
文化財指定推進事業	市内各所に所在する貴重な文化財の保護と活用のため、重要文化財松殿山荘修礼講堂などの保存修理や市指定文化財大幣神事を含めた17件に対し、補助を行った。
近鉄小倉駅周辺地区まちづくり基本計画策定事業	市内の代表的な商業集積地である近鉄小倉駅周辺地域の特徴を活かすとともに、ニンテンドーミュージアムの波及効果を取り込み、人を集める新たな魅力の創出と周遊観光の活性化につながるまちづくりを目指し、地権者や企業へのヒアリングを行うなど、まちづくりプランの検討を進めた。

中間総括
令和3年度に市道宇治228号線の無電柱化工事が完了し、宇治川周辺の伝統的な沿道景観との調和のとれたまちづくりを進めることができた。一方で歴史公園ミュージアムの来館者数は改善傾向となっているものの、目標値の達成に向けては厳しい状況となった。 小倉地域のニンテンドーミュージアムの開館を契機に、宇治市の観光の中心である中宇治地域と小倉地域をつなぐ取組を実施し、周遊観光の促進を図る。

<宇治228号線>



着工前



完成後

②人・物の交流の活性化事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
市内鉄道駅乗客数	万人	2,791 (H29)	2,174	2,273	2,440	集計中*		2,940 (R6)
主要バス停乗降客数	万人	404 (H29)	323	350	371	集計中*		404 (R6)
バリアフリー新法に基づく バリアフリー化済鉄道駅数	駅	11 (H30)	12	12	13	13		14 (R6)

*各公共交通機関へ照会中であり公表は令和7年夏を予定

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
地域公共交通活性化事業	市内各種イベントにおいて公共交通機関の利用促進に向けた啓発やお出かけマップの配布を行うとともに、小中学生を対象としたバスの乗り方教室を実施するなど公共交通の活性化を図った。また、明星町地区のりあい交通事業の活用により、路線バス運行を継続した。
主要駅、駅前広場及び周辺道路の整備事業	JR六地蔵駅の駅舎移転に伴い、駅前広場の再整備を実施したほか、駅周辺の交通利便性の向上のため、六地蔵33号線の道路改良工事、自動車歩行者専用道路整備を実施した。また、利用者の安全性の向上のため、近鉄小倉駅西側の歩道等整備やJR黄檗駅のバリアフリー化工事に取り組んだ。

中間総括
JR奈良線高速化・複線化第二期事業開業やそれに伴う主要駅のバリアフリー化、地域住民との協働による路線バスの運行、宇治徳洲会病院が運行する送迎車両を活用した高齢者の買い物移動支援など、移動の利便性の向上に向けて取組を推進した。 今後も公共交通の確保・利用促進に努めるとともに、持続可能な移動手段のあり方について検討を進める必要がある。

<JR六地蔵駅前広場>



<六地蔵地区自転車歩行者専用道路>



③豊かな市民生活を実現する社会基盤の整備事業

重要業績評価指標（K P I）		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
公共施設将来像の基本構想策定	—	—	—	策定				策定 (R3)
次期都市計画マスタープランの策定	—	—	—	—	策定			策定 (R3)
長寿命化対策橋梁数 (年度末長寿命化完了数)	橋	6 (H30)	13	15	16	17		17 (R5)
汚水処理人口普及率	%	96.3 (H30)	97.0	97.2	98.1	99.0		99.1 (R5)
中小河川等のBOD負荷量	kg/ 日	33.6 (H30)	測定 不可*	14.9	16.0	13.6		25.1 以下 (R5)

*河川の流水量が少なく測定不可であった

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
未来につなぐ都市づくりプラン策定事業	都市計画マスタープランをより具体的に進めるためのアクションプランとして位置づけ、策定に取り組んだ。策定にあたっては説明会やパブリックコメントの他、まちづくりオープンハウスとして宇治市内の商業施設等においてプランについてのパネル展示を行い、来場者との意見交換を行った。
長寿命化等公共施設アセットマネジメント推進事業	宇治市公共施設アセットマネジメント推進計画に基づく長寿命化改修工事に向け、生涯学習センター等の調査を実施するとともに、斎場や総合福祉会館などの設計業務を行った。

中間総括
令和3年度の策定を目標としていた都市計画マスタープランについては、新型コロナウイルス感染症の影響で意見交換会等の開催を延期したことにより、令和4年度の策定となったが、将来の都市づくりに関する方向性を示すことができた。 策定した都市計画マスタープランに基づき、将来のまちの発展につながる構想路線を見据えた道づくりの検討に着手するなど、引き続き計画的・効率的な道路等の整備や長寿命化に取り組む。

④地域コミュニティの活性化事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
地域コミュニティ推進シンポジウム及び地域懇談会の参加人数	人	120 (H30)	140	200	340	470		400 (累計) (R2~6)
市民参画・協働（ワークショップ手法等）職員研修の参加人数	人	—	30	130	200	300		350 (累計) (R2~6)
健康長寿サポーター登録者数 (年度末登録者数)	人	144 (H30)	170	194	214	256		300 (R6)
れもねいだー登録者数 (年度末登録者数)	人	107 (H30)	128	139	147	110		150 (R6)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	事業結果
地域のつながり促進事業	人と人とのつながりが希薄化している中、地域のつながりの促進に向け、町内会・自治会をはじめ、市民活動団体等が連携した取組を対象として支援する地域コミュニティ活性化事業や、人々が集まるきっかけや継続したつながりを備えた交流空間の創出など、「人」と「空間」に着目した各種取組を行った。
自主防災組織育成事業補助金	地域における自主的な防災訓練及び防災知識の啓発活動などの継続に向けた支援として、町内会や自治会16団体に対して補助金を交付することにより、地域防災力の向上を図った。

中間総括
防災や健康づくりなど様々な観点から地域への関心を高め、地域のつながりを促進する取組や担い手の育成など、地域コミュニティの活性化に向けた各種取組を推進した。 町内会・自治会の加入率の低下や担い手不足が引き続き課題となる中、主体的な地域活動を推進するとともに、地域団体・NPO・事業者などの連携を促進し、協働による地域コミュニティの活性化を図る。

⑤地域の豊かさを維持・向上させる国土強靱化の推進事業

重要業績評価指標（K P I）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
自主防災組織率	%	73.1 (H30)	74.7	75.2	75.4	76.2		79.0 (R6)
市有建築物の耐震化率	%	93.0 (H27)	98.6	—	—	100.0		100.0 (R7)
雨水地下貯留施設数 （年度末貯留施設数）	箇所	6 (H30)	7	7	8	9		12 (R6)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	事業結果
災害時地域タイムライン作成支援事業	災害発生時にいつ、どこへ、どのように避難するかを定める「災害時地域タイムライン」の作成に向け、洪水浸水想定区域にある自主防災組織や町内会などへの支援を行った。また、若年層に向けた防災意識の啓発と地域防災力の向上を目的に防災シンポジウムを開催した。
耐震診断・耐震改修推進事業	既存住宅の耐震化を促進するため、防災フェア等防災関係のイベントにおいて、パネル展示やリーフレット・チラシ配布などの啓発活動を行った。また、旧耐震基準で設計されている木造住宅等の耐震診断及び耐震改修について、助成事業を実施した。

中間総括
自主防災組織率については目標未達成となっているものの、自主的な防災訓練等への支援だけでなく、タイムラインの作成に向けた職員派遣や若年層への啓発など、目標達成に向けて取組を推進した。また、市が取り組む市有建築物の耐震化率については目標値を達成した。 自然災害が激甚化・頻発化する中、引き続き、市民への防災意識の普及・啓発により、安全・安心なまちづくりの実現に向けて取組を推進する必要がある。

<防災シンポジウム>



<地域の防災訓練>



(4) 『持続的に発展する地域経済の活力づくり』

～宇治に「しごと」と「ひと」の好循環をつくる～

(目的)

若年層の本市への移住・定住につなげていくためには、近隣での働く場の創出が重要であり、持続的に発展する地域経済を実現し、「しごと」と「ひと」の好循環をつくることにより、将来にわたって持続発展できる強い市内産業をつくり、多様な働く場を創出することにより、定住人口を確保し、市民の豊かな暮らしを実現する。

さらに、地域経済の活用づくりや多様な働く場を創出する側面においては、市内企業の発展や市外からの企業の受入・誘致は重要な課題であるため、産業戦略に基づいた取組を推進する。

(数値目標)

数値目標	単位	基準値 (年)	達成状況					目標値 (年)
			R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
市内事業所数 (※)	事業 所	5,413 (H28)	—	5,126	—	—	—	5,413 (R3)
市内従業者数 (※)	人	54,794 (H28)	—	54,266	—	—	—	56,500 (R3)

(※) 経済センサスより

(中間総括)

市内事業所数・従業員数が減少傾向にある中、新たな産業の創出に向けて産業交流拠点「うじらぼ」を開設し、多様な起業家の輩出を目指して様々なイベントを実施するとともに、円滑な事業承継を進めるため、セミナーや交流会を開催し、アトツギコミュニティの形成支援を行った。

また、市内産業の活性化のため、産業支援拠点「宇治NEXT」において市内事業者の課題やニーズを聞き取り、各種制度の紹介をはじめとした幅広い支援を実施した。

引き続き、事業所数の減少抑制のため、市内企業の発展支援や企業誘致など各種事業に取り組むとともに、人材不足などの課題解決に向けて生産性向上を目的としたDXの推進などの取組を検討する必要がある。

(具体的な施策)

①市内産業の進化・発展事業

重要業績評価指標 (K P I)		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
海外販路における取引数 (※)	社	16	27	36	36	32		25
	品目	220 (H30)	130	130	134	113		300 (R6)
企業支援数 (訪問等による支援数)	社	100 (H30)	88	186	210	165		150 (R6)
W E Bを活用した雇用・就労 支援 (アクセス数)	件	—	41,984	—				3,000 (R3)
農業に係る担い手の法人化経営 体数 (年度末経営体数)	件	6 (H30)	8	7	8	9		10 (R5)
担い手への農地利用集積率	%	29.3 (H30)	27.2	26.2	25.8	28.7		35.0 (R5)

(※) 宇治商工会議所が実施する販売開拓数

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
市内企業PR動画作成事業	WEBを活用した雇用・就労支援の一環として、市内製造業を取材し、求職者向けのプロモーション動画の作成を行うことにより、市内製造業の人材確保を支援した。作成した動画は各事業者のホームページで公開されたほか、企業説明の場などで活用されている。
中小企業事業承継支援事業	市内事業者の円滑な事業承継の促進による廃業件数の抑制と持続的な経営支援を目的に、家業の後継者・後継者候補を対象とした「アトツギらば LEADERS CAMP」を実施し、参加者同士の自発的な交流を通じたアトツギコミュニティの創出と活性化による成長支援を行った。

中間総括
新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の一部について実施が困難な状況になったため、海外販路における取引品目数は基準値を下回ったものの、取引社数や企業支援数、WEBを活用した雇用・就労支援については目標達成となった。農業に関する指標についてはどちらも未達成となっており、引き続き新たな担い手の確保に取り組むとともに、農業経営の安定化や効率化への支援を行う必要がある。

②交流連携の強化事業

重要業績評価指標（K P I）		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
農商工が連携した新商品 開発等への支援件数	件	—	0	1	1	1		6 (累計) (R2~6)
異業種交流会の開催	回	—	2	7	10	15		14 (累計) (R2~6)
製造業の情報発信数	社	—	28	83	137	186		230 (累計) (R2~6)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
農業情報発信事業	市内産農産物の情報発信・販路拡大支援として市内農業者と飲食業などの事業者の対面方式による「農業者×市内事業者マッチング商談会」を開催した。宇治市内で米や野菜などを育てる農業者8名と市内の飲食に関する事業者11名が参加し、2件のマッチングにつながった。
中小企業情報発信事業	市内製造業の情報発信による販路拡大や雇用の確保を目的とし、工場見学ツアーの実施やものづくり企業によるワークショップなどを行うとともに、「2024宇治市ものづくり企業ガイドブック」を作成し、近畿圏内の製造業者等に配布することで市内製造業を幅広くPRした。

中間総括
市内事業者間の交流促進による販路拡大や新たな価値の創出に向け、セミナーや交流会を開催し、事業者同士のマッチングを支援するとともに、理系大学研究室との連携によるセミナーや意見交換会の開催により、市内事業者のイノベーション促進を図った。事業を通じて実際にマッチングにつながった事例もあり、引き続き、産学連携や事業者間の交流促進による新たな商品や技術開発、取引の拡大に努める。

③新たな産業創出事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
新たな起業拠点の整備	箇所	—	1	—				1以上 (累計) (R2~3)
創業支援補助件数	件	7 (H30)	6	19	31	41		43 (累計) (R2~6)
起業ニーズ掘り起しのための 創業塾等の開催数	回	—	3	19	32	56		40 (累計) (R2~6)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
中小企業交流促進事業	事業者間の交流・連携強化による新たな価値の創出に向け、セミナーや交流会を開催した。また、起業家育成プログラムとして起業前・起業直後の段階における機運醸成セミナー「Uji Local Venture Meet-UP」を開催し、ローカルビジネスに取り組む新たな担い手の育成・交流促進を図った。
こども未来キャンパス事業	小中学生を対象とし、社会とつながる体験を通じて今後多様な働き方を選択し、挑戦できるようになることを目指す「宇治市こども未来キャンパス」と高校生・大学生を対象とし、地域と関わりながら課題解決に向けた事業を具現化する「宇治市未来キャンパス」を実施した。

中間総括
新たな産業の創出や企業に対する支援を実施するため、産業交流拠点「うじらぼ」を開設し、コワーキングスペースとして活用するとともに、市内事業者の交流を促進する様々なイベントの開催や子ども向けの起業スクールの実施などの取組を推進した。 引き続き、時代のニーズに合わせた多様な起業家の輩出による担い手の確保や企業誘致などによる新たな産業の創出に取り組む必要がある。

<Uji Local Venture Meet-UP>

<こども未来キャンパス>

（５）『若い世代の就労・結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり』

～子どもが輝く未来の宇治を築く～

（目的）

子育て世代の本市への移住・定住につなげていくためには、宇治で結婚・出産・子育てをしたいと思えるイメージの形成とそれらの実現に向けた支援及び環境づくりにより、住みたい、住み続けたいまちになることが必要である。結婚から安心して子どもを産み育てられる切れ目のない支援と地域で子どもを見守り交流できる環境づくりなど、子育て世代のニーズを把握する中で、その希望をかなえるまちを実現するとともに、次代のまちづくりを担う子どもたちが、宇治で子育てに夢を持ち、家庭を築き、子どもを産み育てたいと思えるまちを実現する。

また、宇治の未来を担う子どもを育むため、学力向上に向けた取組など、教育・家庭環境のより一層の充実を図る。

（数値目標）

数値目標	単位	基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
			R2	R3	R4	R5	R6	
出生数	人	6,514 (H26～30年)	1,118	2,216	3,223	4,183		7,500 (累計) (R2～6年)
子育てしやすい環境や支援への満足度（※）	%	22.9 (H30)	—	—	—	19.9		30.0 (R5)

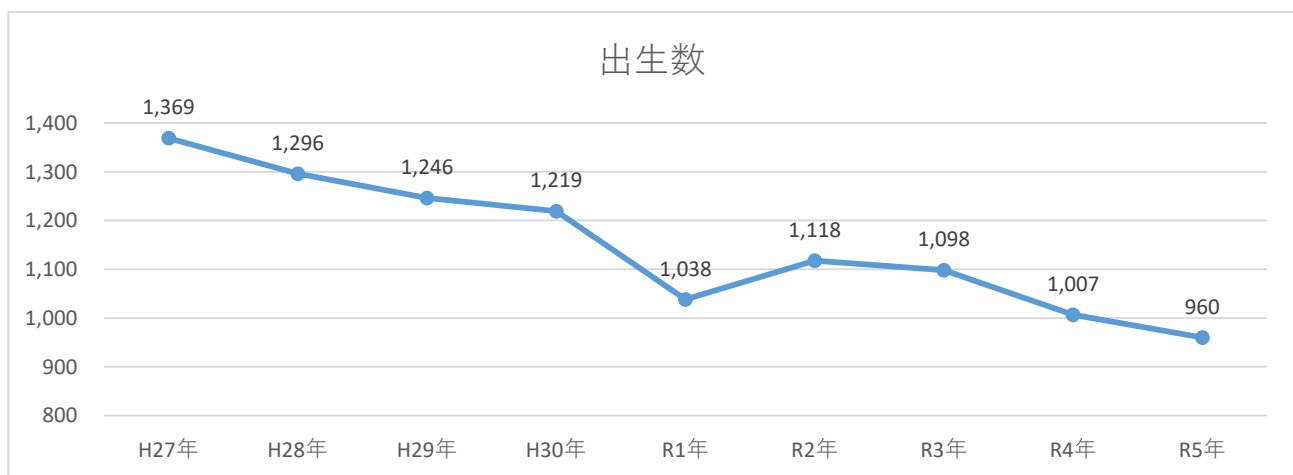
（※）子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

（中間総括）

子育てにやさしいまちの実現に向け、妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援や子育て世帯が安心して出かけられる環境整備などの各種事業を推進してきたが、出生数は令和2年以降減少傾向にあり、令和5年には1,000人を切るなど、目標値の達成に向けては厳しい状況となった。

一方で、創生総合戦略策定以降の社会動態では0～17歳の転入超過が続いていることから、子育て世帯に向けた施策については一定効果が出ているものと推測しており、今後も子育て世帯のニーズを把握し、効果的な取組を検討する必要がある。

引き続き、結婚・出産・子育てに関する若者の不安を解消するため、就労支援や雇用創出に向けた取組を実施するとともに、子育てにやさしい風土づくりをはじめ、地域や社会で支え合う子育てにやさしいまちづくりを推進する必要がある。



(具体的な施策)

①若い世代の就労支援事業

重要業績評価指標 (K P I)		基準値 (年度)	達成状況					目標値 (年度)
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
20歳代後半から30歳代前半の就業率 (※)	%	74.6 (H27年)	69.1	—	—	—	—	80.0 (R2年)
大学・大学院・短大卒業予定者及び既卒者対象の製造業合同企業説明会の来場者数	人	37 (H30)	48	23	26	14		50 (R6)
奨学資金返還支援者数	人	—	50	92	130	163		250 (累計) (R2~6)

(※) 25歳から34歳の就業者 (国勢調査) ÷ 25歳から34歳の人数 (国勢調査)

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	令和5年度事業結果
中小企業人材確保支援事業	宇治市内の中小企業の人材確保を支援するため、京都産業会館ホールにおいて宇治市主催の「宇治市ものづくり企業合同企業説明会」を開催し、求職者とのマッチングの機会を提供した。20社が参加し、14人の求職者が来場したが、採用にはつながらなかった。

中間総括
就職活動の早期化や売り手市場の状況下で、対面式の合同説明会の来場者数の減少が課題となっている。一方で、若い世代の就業率も基準値を下回る結果となっており、働く場所としての市内事業者の認知度を高めるための情報発信の強化に取り組むとともに、地域で働きたい人とのマッチング支援に取り組む必要がある。

②結婚・出産支援事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
出産しやすい環境や支援への満足度（※1）	%	21.5 (H30)	—	—	—	19.2		30.0 (R5)
産後ケア事業の利用者数	人	宿泊型 —	8	20	13	26		20
		訪問型 —	39	64	53	58		65
		日帰り型 —	20	37	43	51		15 (R6)
妊婦面談率（※2）	%	100.0 (H30)	99.9	99.6	99.9	99.9		100.0 (R6)
妊婦歯科健診受診率	%	32.9 (H30)	31.0	34.5	37.4	34.8		65.0 (R5)

（※1）子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

（※2）妊婦面談数÷妊娠届出数

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	事業結果
出産・子育てあんしんサポート事業	妊娠期から出産・子育てまでを一体的に支援するため、妊娠届提出時・妊娠8か月時・出生後において継続して面談を実施する伴走型相談支援及び出産・子育てあんしんサポート給付金等の支給による経済的支援を行った。
産後ケア事業	産後において支援を必要とする母子に対しての心身のケアや育児支援等、母子の健康増進のため、宿泊型・日帰り型・訪問型の3種の支援を実施した。令和5年度より、多胎児の保護者負担軽減のため、乳児数に応じて利用日数を増加し、健やかな育児ができるよう支援した。

中間総括
出産後の母親の孤立感の解消や子どもの健やかな成長支援に向けて、妊娠期から母親に寄り添った相談支援を実施するとともに、産後においても必要な支援を実施できるよう取組を推進した。 出生数の増加に向け、引き続き、宇治で出産・子育てしたいと思えるイメージの形成と安心して出産できる環境づくりに取り組む必要がある。

③子育て支援環境充実事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
子育てをする上で気軽に相談できる人や場所がある（ある）割合（※） （保護者の割合）	%	就学前児童	—	—	—	90.8		95.0
		92.4				85.6		90.0
		小学生						
		87.9				82.5		85.0 (R5)
		中高生等						
		84.3 (H30)						
待機児童数（国定義後）	人	0 (H30)	0	0	0	0		0 (R6)

（※）子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	事業結果
地域子育て支援拠点事業	市内10か所の子育て支援拠点において、産前から就学前の子どもとその保護者が気軽に集い、交流する場を提供するとともに、子育てに関する相談や情報提供を行った。また、よくある質問については子育て情報誌に反映するなど、子育てに関する情報発信の充実に取り組んだ。
子育ておうえん環境整備事業	乳幼児がいる家庭でも気軽に外出し、安心して過ごせるよう、モデルエリアである中宇治地域、小倉地域、木幡・黄檗地域の店舗や団体を対象に、授乳室や子ども用トイレの設置、子育て世代イベントの開催などに対する支援を行った。

中間総括
子育て世代が安心して出産・育児を行うことができるよう、地域で楽しみながら子育てができる環境づくりに向け、親子の交流の場づくりや情報発信の充実、出かけやすい環境整備などを推進した。 引き続き、共働き世帯やひとり親世帯の増加により多様化する保育ニーズへの対応や仕事と子育てを両立できる環境づくりに取り組む必要がある。

<「うちの子育て宇治」トークセッション>



<宇治子育て情報誌>



④学習環境等充実事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
家庭学習の定着度 （授業以外の勉強が平日1日 当たり30分に満たない子ども の割合）（※1）	%	小学6年生 19.9 （全国平均） 13.0	—	小学6年生 19.9 （全国平均） 13.0	小学6年生 25.0 （全国平均） 14.7	小学6年生 23.2 （全国平均） 16.0		小学6年生 13.0以下
		中学3年生 15.9 （全国平均） 9.9 （R3）		中学3年生 15.9 （全国平均） 9.9	中学3年生 20.1 （全国平均） 13.4	中学3年生 21.4 （全国平均） 15.9		中学1年生 9.9以下 （R6）
将来の夢がある子どもの割合 （※2）	%	小学生 71.5	—	—	—	66.9		小学生 75.0
		中高生 49.7 （H30）				42.8		中高生 50.0 （R5）
学習者用PC・タブレット端 末の整備率	人/台	12.1 （H30）	1	1	1	1		1 （R5）
学校図書館図書標準に対する 図書整備率が達成している小 学校・中学校数	校	小学校 20/22	22/22	22/22	22/22	22/22		全校達成 （R6）
		中学校 3/10 （H30）	6/10	6/10	8/10	9/10		
学校施設長寿命化計画の策定		—	策定					策定 （R2）

（※1）全国学力・学習状況調査の項目変更により評価指標変更

（※2）子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	事業結果
学びのステップアップ事業	小学校2・3年生を対象に学力調査を実施し、調査結果の分析データを活用することで強みと弱みを把握して授業の改善に生かすとともに、日常の学習記録データと合わせた分析を行い、基礎学力の定着と家庭での学習習慣の確立を図った。
ICT授業アドバイザー設置事業	教員のICT活用を支援し、学校・教員間でのICT活用状況の差を解消するため、ICT利活用についての専門的な知識を有するICT授業アドバイザーを設置した。月に2回、各校を訪問し、ICTの活用事例の紹介や効果的な活用方法の提案などを行った。

中間総括
1人に1台、学習用タブレット端末を整備するとともに、ICT授業アドバイザーを配置し、効果的なICTの活用に向け、取組を推進した。また、学力調査結果をAIドリルと連携し、個別最適な学習課題に取り組むことにより、基礎学力の定着を図った。 引き続き、地域・家庭との連携により、教育・学習環境の充実に取り組む必要がある。

⑤切れ目のない連携教育推進事業

重要業績評価指標（K P I）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
中学校入学に対する不安割合 （中学1年生は「今、学習や生活について不安や悩みがある」割合）（※）	%	小学6年生 50.4	—	—	小学6年生 45.2	小学6年生 54.0		小学6年生 47.0以下
		中学1年生 28.0 （H30）			—	—		中学1年生 25.2以下 （R6）
通常の学級に在籍する発達障害を含む障害のある児童生徒に対する個別の教育指導計画	%	75.8 （H30）	72.5	76.5	77.7	78.8		100.0 （R6）

（※）小中一貫教育に係る意識等調査より

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	事業結果
小中一貫教育推進事業	小中一貫教育を推進するため、ラーニングコーディネーター・教科連携教員を全中学校ブロックに配置し、系統的・継続的指導の充実を図った。また、「宇治市小中一貫教育推進協議会」による取組状況の進行管理を行った。
多様な学びの場創造事業	障害の有無に関わらず共に学ぶ「インクルーシブ教育システム」の構築を目指し、障害のある子どもへの適切な支援と学びの場の保障のため、モデル校に特別支援教育について専門性の高いインクルーシブサポーターを配置し、きめ細やかな支援体制の構築などについて研究を進めた。

中間総括
小中一貫教育の特色ある教育活動として「宇治学」を実施するなど義務教育9年間の学びの連続性を意識した系統的・継続的な指導による学力定着・向上に向けた取組を推進することができた。 今後は令和8年度の開校に向け、西小倉地域小中一貫校の整備を進めるとともに、一人ひとりの多様性に配慮したインクルーシブな教育を推進する必要がある。

⑥地域等協働子育て環境充実事業

重要業績評価指標（KPI）		基準値 （年度）	達成状況					目標値 （年度）
指標	単位		R2	R3	R4	R5	R6	
子どもが自分から近所の人にあいさつする割合（※1）	%	小学生	—	—	—	69.5		小学生
		76.5						80.0
		中高生等				66.5		中高生等
青少年育成協議会のジュニアリーダーとして活動した人数	人	12 (H30)	活動中止*	活動中止*	11	13		20以上 (R6)
放課後子ども教室延べ参加人数	人	4,157 (H30)	3,746	2,601	4,110	4,023		6,000以上 (R6)
各中学校ブロックで開催する地域懇談会の平均参加人数	人	90 (H30)	開催中止*	開催中止*	開催中止*	38		100以上 (R6)
児童生徒が地域活動に参加した割合（※2）	%	小学校	—	—	小学6年生	小学6年生		小学6年生
		60.0			50.4	51.0		58.1以上
		中学校			中学3年生	中学3年生		中学3年生
		30.9 (H30)			31.8	29.8		43.7以上 (R6)

（※1）子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

（※2）全国学力・学習状況調査より

*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動等を中止した

基本目標達成に向けた主な事業	
事業名	事業結果
地域学校協働活動推進事業	全宇治市立小中学校において、学校運営協議会と地域学校協働活動を一体的に推進するコミュニティ・スクールを導入し、登下校の見守りや学習支援、防災シンポジウムでの発表など様々な取組を行い、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域と連携した。
地域安全・安心見守り事業	日常生活の中で防犯活動への参加機会を増やす「ながら」防犯の推進のため、パトラン京都山城チームとの連携や商業施設での啓発活動、事業者の協力による社用車へのマグネットシートの貼付などを行い、市民との協働による地域や子どもの見守り活動に取り組んだ。

中間総括
令和4年度から全市立小中学校においてコミュニティ・スクールを導入し、身近な地域住民が子どもを見守り支える仕組みを構築することができた。また「ながら防犯」の推進により、日常生活の中での防犯活動への参加機会を増やすことで、地域防犯力の向上に向けた取組を推進した。引き続き、家庭・学校・地域の連携の強化と協働の推進に取り組む必要がある。

6. 国の地方創生関係交付金を活用した事業

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）

※補助率1/2

令和5年度事業

あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を ～みんなが主役の地域振興事業～（令和3年度～令和7年度）

（事業概要）

京都府全域において取り組んできた観光地域づくりのこれまでの成果を、産業振興・雇用創出なども含めた地域振興につなげるため、観光を入口とした圏域内の関係人口の創出拡大や地域の活力づくりに取り組む。

（数値目標）

重要業績評価指標（KPI）		基準値 （年度）	達成状況				目標値 （年度）
指標	単位		R3	R4	R5	R6	
観光客の宇治市満足度（※1） （飲食・お土産・景観等）	%	55.0～ 93.0 (H28)	—	63.5～ 94.5	—		全て85.0 以上 (R4)
観光客のリピーター割合 （※1）	%	56.3 (H28)	—	59.4	—		70.0 (R4)
市民の宇治への愛着度 （※2）	%	73.2 (R1)	—	72.9	69.6		90.0 (R6)
市民の定住意向 （※2）	%	47.9 (R1)	—	46.3	50.6		70.0 (R6)

（※1）宇治市観光動向調査より

（※2）定住に関するアンケート調査より

（主な事業）

事業名	事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
お茶の京都DMO協議会負担金	14,814	7,407	7,407
まちあるきガイドツアー事業費	118	59	59
観光活性化事業補助金	1,000	500	500
放ち鶴飼事業補助金	3,300	1,650	1,650
高品質茶ブランド力強化事業費	5,286	2,643	2,643
茶・茶園品評会出品奨励費	6,194	3,097	3,097
市内産宇治茶PR事業費	1,505	753	752
歴史まちづくりサミット開催費	2,064	1,032	1,032
天ヶ瀬ダムかわまちづくり推進費	4,556	2,278	2,278
自主防災組織育成事業補助金	632	316	316
地域のつながり促進事業費	2,185	1,093	1,092
地域安全・安心見守り事業費	6,814	3,406	3,408
地域福祉活動応援事業費	1,047	523	524
地域ボランティア等担い手育成事業費	1,000	500	500
山間地域移動支援事業費	300	150	150
高齢者免許返納支援事業費	800	400	400

高齢者買物移動支援事業費	206	103	103
働きやすい農業支援事業費	116	58	58
農業用施設等導入チャレンジ事業費	1,711	856	855
空き家対策事業費	173	87	86
空き家利活用推進事業費	127	63	64
合計	53,948	26,974	26,974

(評価・課題)

宇治茶や鶴飼など宇治の伝統ある資源の活用や新たな都市整備による観光資源の創出に取り組むとともに、市内への移住・定住の促進に向け、空き家の活用への補助を行った。また、地域内での助け合いや地域活動への支援を行い、住みよいまちの実現に向けて取組を推進することができた。

引き続き、宇治の魅力を広く発信するとともに、地域の活性化に向けた取組を進める必要がある。

「子育て、子育てにやさしい」京都創生プロジェクト事業（令和４～７年度）

（事業概要）

子育て世代の外出支援とタイアップした商店街の活性化支援や、課題である子どもの外遊び環境へアプローチする体験・交流の場の創出、子育て世代の仕事づくり等の拠点群を集中的に形成するとともに、地元の住民・企業と協働し、地域全体で子どもを見守り、子育てを支援する体制整備により、子育てにやさしいまちづくりを進める。

（数値目標）

重要業績評価指標（KPI）		基準値 (年度)	達成状況			目標値 (年度)
指標	単位		R4	R5	R6	
出生数	人	6,514 (H26～30年)	3,223 (R2～4年)	4,183 (R2～5年)		7,500 (累計) (R2～6年)
子育てしやすい環境や支援への満足度（※）	%	22.9 (H30)	—	19.9		30.0 (R5)

（※）子ども・子育て支援に関するニーズ調査より

（主な事業）

事業名	事業費（実績） (千円)	財源内訳	
		交付金	その他
地域のつながり促進事業費	1,263	631	632
こども未来キャンパス事業費	13,252	6,626	6,626
子育ておうえん環境整備事業費	4,121	2,060	2,061
宇治茶ふれあい事業費	817	409	408
空き家活用促進まちづくり支援事業費	1,000	500	500
公園でつなぐ子育てにやさしいまち創出事業費	10,286	5,143	5,143
合計	30,739	15,369	15,370

（評価・課題）

子育て世代の外出支援や子どもの外遊びを促進する体験・交流の場の創出のため、地域の店舗や空き家を活用した多世代が集まりやすい空間創出への補助を行うとともに、安心して遊べる公園の整備と親子を対象とした体操教室などのイベントの実施など、子育てしやすい環境整備を推進することができた。

引き続き、地域で子どもを見守り、子育てを支援する体制を整備し、子育てにやさしいまちの実現に向けて取り組む必要がある。

文化庁京都移転を契機とした京都からの文化創造・発信事業（令和５～７年度）

（事業概要）

文化庁京都移転や大阪・関西万博の開催等、国内外から注目が集まる機会が続く中、伝統と最先端の文化が共存する多様性と寛容性のある文化を土台として、多様な魅力の向上による観光誘客、うるおいや活力があり、豊かさを感じられる社会の実現、地域文化の担い手の増加に取り組むことで、文化の力でにぎわいのある地域づくりを目指す。

（数値目標）

重要業績評価指標（KPI）		基準値 （年度）	達成状況			目標値 （年度）
指標	単位		R5	R6	R7	
市民の宇治への愛着度	%	2,459 (R1)	69.6			2,915 (R4)
文化芸術振興基本計画策定		— (R1)	令和3年度策定済み			策定 (R3)

（主な事業）

事業名	事業費（実績） （千円）	財源内訳	
		交付金	その他
紫式部文学賞受賞費	8,993	4,496	4,497
宇治十帖スタンプラリー開催費	8,619	4,310	4,309
文化芸術活動動画配信事業費	1,310	655	655
高校生文化芸術祭典事業費	2,740	1,370	1,370
五感で楽しむ古の文化講座開催費	536	268	268
つむぐみらい文化芸術活動支援事業費	244	122	122
文化の都・京都プロジェクトin宇治事業費	1,600	800	800
合計	24,042	12,021	12,021

（評価・課題）

文化芸術振興の基盤づくりのため、文化芸術団体による学校や福祉施設等への出張レッスンなど地域連携の取組に支援を行うとともに、若い世代の発表の機会や交流の場を提供することで次世代の文化芸術の担い手の育成に向け、取組を推進することができた。

引き続き、文化芸術に触れる機会の創出と次世代の担い手の育成に向け、取組を進める必要がある。

宇治市・大津市間における平安文化観光推進事業（令和５～７年度）

（事業概要）

宇治市及び大津市両市において大河ドラマ「光る君へ」の放映や北陸新幹線の開通、大阪・関西万博の開催などを契機とし、平安文化をテーマとした広域的な観光事業を展開することで、まちの魅力を発信し、国内外からの観光客をはじめとした様々な目的で両市を訪れる人を増やし、地域事業者の収益の向上や新たな雇用の創出などにより地域経済の活性化を目指す。

（数値目標）

重要業績評価指標（KPI）		基準値 (年度)	達成状況			目標値 (年度)
指標	単位		R5	R6	R7	
宇治市へ訪れた観光客の飲食店利用率	%	81.0 (R4)	—			90.0 (R7)
京都を訪れた観光客の宇治市への来訪率	%	42.0 (R4)	—			60.0 (R7)

（主な事業）

事業名	事業費（実績） (千円)	財源内訳	
		交付金	その他
紫式部のまちにぎわい創出事業費	44,555	22,277	22,278
紫式部のまち魅力発信プロモーション事業費	48,593	24,297	24,296
源氏物語ミュージアム特別企画展示費	1,070	535	535
源氏物語ミュージアム広報活動費	1,144	572	572
歴史文化体験事業費	2,558	1,279	1,279
合計	97,920	48,960	48,960

（評価・課題）

大津市との連携による平安文化観光ルートの形成による話題性の創出やPR力の強化を図り、京都観光を目的とする来訪者への認知度向上に向け取組を推進した。

引き続き、認知度の向上に取り組むとともに、観光統計データの活用による市場ニーズに応じた事業の見直しを行い、観光消費額の増加に向けて取組を進める必要がある。

7. 重要業績評価指標（KPI）目標値修正一覧

①当初目標値達成

当初目標値を達成したため、目標値の上方修正を行った。

重要業績評価指標（KPI）		基準値	当初目標値	達成時の実績値	修正後目標値	掲載ページ
指標	単位	(年度)	(年度)	(達成年度)	(年度)	
地域ブランド調査 魅力度全国ランキング	位	35 (R1)	29 (R6)	27 (R3)	25 (R6)	8
ふるさと応援寄附件数	件	3,410 (H30)	4,900 (R6)	10,839 (R3)	14,700 (R6)	8
生涯人材バンクの利用率	%	38.9 (H30)	38.9 (R3)	50.0 (R4)	52.0 (R6)	15、16
コミュニケーションアプリ登録者数（年度末登録者数）	人	3,500 (H30)	9,300 (R6)	13,318 (R3)	30,000 (R7)	18
行政・生活情報に係るコミュニケーション支援取組数	件	2 (H30)	7 (R6)	8 (R4)	10 (累計) (R6)	19
長寿命化対策橋梁数 (年度末長寿命化完了数)	橋	6 (H30)	15 (R5)	15 (R3)	17 (R5)	23
市民参画・協働（ワークショップ手法等）職員研修の参加人数	人	— —	150 (累計) (R2～6)	200 (累計) (R2～4)	350 (累計) (R2～6)	24
異業種交流会の開催	回	—	4 (累計) (R2～3)	7 (累計) (R2～3)	14 (累計) (R2～6)	28
製造業の情報発信数	社	—	60 (累計) (R2～3)	83 (累計) (R2～3)	230 (累計) (R2～6)	28
創業支援補助件数	件	7 (H30)	7 (累計) (R2～3)	19 (累計) (R2～3)	43 (累計) (R2～6)	29
企業ニーズ掘り起しのための創業塾等の開催数	回	—	8 (累計) (R2～3)	19 (累計) (R2～3)	40 (累計) (R2～6)	29

②当初目標年度到達

関連計画の改定や状況の変化に応じて、目標値等の修正を行った。

重要業績評価指標（K P I）		基準値	当初目標値	修正時の実績値	修正後目標値	掲載ページ
指標	単位	(年度)	(年度)	(年度)	(年度)	
重要文化的景観地区選定面積 (年度末選定面積)	ha	228.5 (H30)	520.0 (R4)	228.5 (R4)	546.7 (R6)	13
宇治鳳凰大学受講者数	人	619 (R1)	650 (R3)	469 (R3)	400 (R6)	16
雨水地下貯留施設数 (年度末貯留施設数)	箇所	6 (H30)	9 (R3)	9 (R5)	12 (R6)	25
農商工が連携した新商品開発 等への支援件数	件	—	4 (R2～3)	1 (R3)	6 (R2～6)	28
児童生徒が地域活動に参加した割合	%	小学校 60.0	小学6年生 65.0以上	— (R3)	小学6年生 58.1以上	36
		中学校 30.9 (H30)	中学1年生 39.7以上 (R3)		中学3年生 43.7以上 (R6)	

③指標の変更

対象者を拡充し、高校生に限らない多様な主体によるプラットフォームにおいて、効果的な魅力発信を推進することから指標の修正を行った。

重要業績評価指標（KPI）		基準値	当初目標値	修正時の実績値	修正後目標値	掲載ページ
指標	単位	(年度)	(年度)	R2	(年度)	
高校生版魅力発信プラットフォーム延べ参加人数 ↓ 魅力発信プラットフォーム延べ参加人数	人	39 (H30)	250 (累計) (R2~6)	0		8、17

特定の公共施設の構想を示すものではなく、公共施設の将来像を示すという本来の事業主旨にあわせ、事業名称を変更したことから指標についても修正を行った。

重要業績評価指標（KPI）		基準値	当初目標値	修正時の実績値	修正後目標値	掲載ページ
指標	単位	(年度)	(年度)	R2	(年度)	
未来型公共施設構想策定 ↓ 公共施設将来像の基本構想策定	—	—	策定 (R3年度)	—		23

指標としていた文部科学省「全国学力・学習状況調査」の項目変更により、指標・基準値・目標値の変更を行った。

重要業績評価指標（KPI）		基準値	当初目標値	修正時の実績値	修正後目標値	掲載ページ
指標	単位	(年度)	(年度)	R3	(年度)	
(旧) 家庭学習の定着度 (授業以外に1時間以上勉強している割合)	%	小学6年生 56.0 (全国平均) 66.2 中学3年生 66.1 (全国平均) 70.6 (H30)	全国平均以上 (R3)	小学6年生 55.8 (全国平均) 62.5 中学3年生 69.6 (全国平均) 75.9 (R3)		34



(新) 家庭学習の定着度 (授業以外の勉強が平日1日当たり30分に満たない子どもの割合)	%	小学6年生 19.9 (全国平均) 13.0 中学3年生 15.9 (全国平均) 9.9 (R3)	— —	— —	小学6年生 13.0以下 中学1年生 9.9以下 (R6)	34
---	---	---	------------	------------	---	----